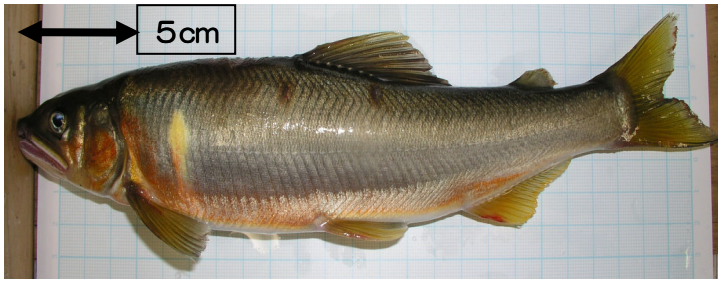


鹿児島県におけるアユの生態

漁場環境部 主任研究員 久保 満



成熟したアユ

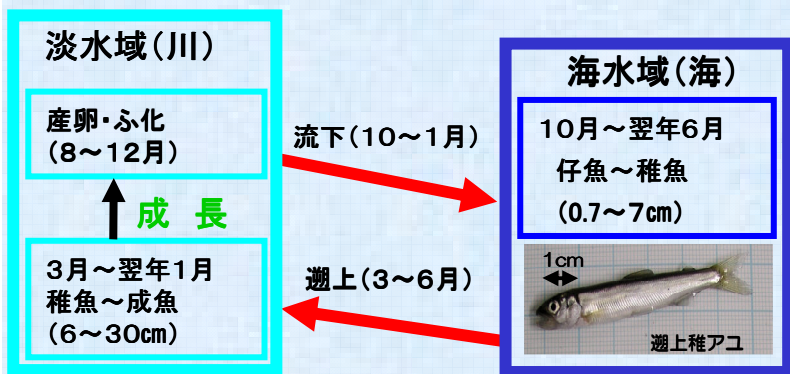
アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* (サケ目・アユ科) は日本列島、朝鮮半島、中国大陸に分布し、「友釣り」等、日本の初夏の風物詩となっています。

香りが良く、塩焼きが美味しいです。

本種は、本県内水面漁業の主要な対象魚種であり、生産量が減少しているため、稚アユ採捕者や釣り人にとって、遡上時期や遡上量は大きな関心事となっています。

※ 遡上: 海から川へ上ること

通し回遊 (とおしかいゆう) 淡水性両側 (りょうそく) 回遊



アユ流下仔魚調査状況

淡水域 (たんすいいき) で孵化した魚類等が、海水域でしばらく生活した後に、川を遡上 (そじょう) し、淡水域で成長を続け、成熟 (せいじゅく) して産卵する。

流下仔魚 (りゅうかしぎよ) 調査

流下仔魚調査を行うことにより「遡上と流下」や「流下と遡上」の関係を把握し、遡上時期や遡上量の推定に努めています。 ※ 流下: 川から海へ下ること

- 11月下旬から12月上旬に流下が多く、年により大きな違いがあります。1日の中では、夕暮れから深夜が多いことが分かりました(図1)。
- 遡上量が多い年は流下量が多くなることが分かりました(図2)。

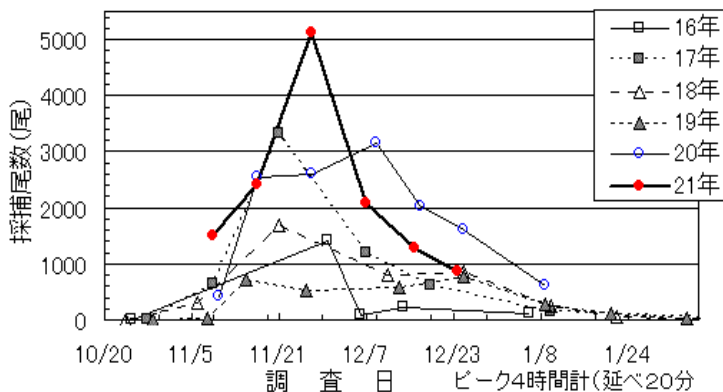


図1 流下仔魚調査結果(天降川下流域)

今後の課題

これまでの調査で「流下と遡上」の関係は明らかにされていません。

現在、河口域周辺の調査を開始し、その関係把握に努めています。

河川流量、川と海の水温等も遡上に影響すると考えられることから、降水量、産卵期の成熟等のデータも蓄積しながら、遡上時期や遡上量の予測につなげたいと考えています。

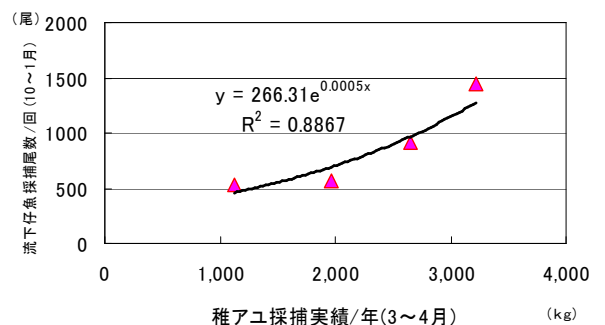


図2 遡上(稚アユ採捕実績)と流下(流下仔魚採捕尾数)の関係